

## 令和5年度 第1回 静岡市立日本平動物園運営委員会議事録

日 時 令和5年10月2日（月） 午後2時00分から午後3時00分まで

場 所 日本平動物園 2階 大会議室

出席者 運営委員：小山委員長、高委員、田宮委員、永岡委員、増田委員、松田委員、矢作委員

事務局：竹下参与兼日本平動物園長、金澤飼育担当課長兼飼育第2係長、山本参事兼園長  
補佐、市川施設係長、岡村飼育第1係長、塩野動物病院係長、望月主査、西岡主任  
主事

オブザーバー：一般財団法人 静岡市動物園協会 榊原事務局長

傍聴者：なし

### 内 容

#### 1 新委員紹介

#### 2 開会

#### 3 園長あいさつ

#### 4 議事

(1) 令和4年度の事業実績について

(2) 令和5年度の事業計画等について

(3) 現況報告

①飼育動物の近況報告について

②飼育動物の繁殖状況と来園・出園・死亡動物について

③改修工事・修繕業務 進捗状況

④その他

⑤大型動物導入推進事業について

#### 5 閉会

### < 議 事 録 >

#### 【新委員紹介】

(司会：山本参事)

新たに委員となられた方を紹介する。桂山洋一委員が令和4年度末の人事異動により、その職を離れられたため、新たに静岡市校長会より推薦いただいた静岡市立清水入江小学校校長の増田宏氏に就任をいただいた。

～ 増田委員 紹介 ～

また、当園側も令和4年度末の人事異動により職員が変更した。新たに異動してきた職員を紹介する。

～ 金澤飼育担当課長兼飼育第2係長、市川施設係長、塩野動物病院係長 紹介 ～

#### 【開 会】

会議は公開とすること、傍聴者がいないこと（定員3名としたこと）、委員の出席は7名中7名であることを報告。

#### 【園長あいさつ】

(竹下園長)

昨年9月の台風15号の影響により甚大な被害を受けたローラースライダーについては、復旧工事を実施しており、11月中旬ごろの再開を予定している。子どもたちに大人気の人気遊戯施設の再開と合わせて、眺望が自慢の山頂エリアの利用もできるため、当園としても賑わいが戻ってくると期待している。

さて、新型コロナウイルス関係では、今年5月8日からその取扱いが「5類感染症」に位置付けられたこともあり、各地の観光地等が以前のような賑わいを取り戻しつつある。当園の入園者数についても回復を期待しているところだが、自粛ムードが取り払われ、遠方への外出が多く選ばれたことから、今年のGWは思ったほどの来園者数はなかった。また、6月以降も週末に雨が重なったこと、連日の猛暑などから、数字的には大変厳しい状況にある。

再流行の兆しもあるが、当園としては、感染状況を注視しながら、イベントをはじめとするこれまで以上の誘客促進を図っていき、コロナ禍前の水準に回復できるよう努めていく。

本日は、当園の運営等に対して、忌憚のないご意見をお願いしたい。

#### 【議 事】

(小山委員長)

規則に基づき議長を務める。会議が円滑に進むよう委員各位の協力をお願いしたい。

次第に沿って項番4の(1)から(3)の令和4年度の事業実績及び令和5年度の事業計画等の順に事務局より一括説明をお願いする。

#### 【事務局説明】

(説明：山本参事)

事前にお渡しした資料を基に各項目の要点を一括して説明する。

##### (1) 令和4年度事業実績

###### ① 令和4年度の実績について

令和4年度の入園者数については、令和3年度と比べ増加したが、令和3年度は8月下旬から9月中のおよそひと月ほど、臨時休園もあったことから、相対的には同程度であったと考えている。また、収入額についても、昨年9月の台風15号の影響によるオートチェア・ローラースライダーの利用停止により、令和3年度と同額程度となった。

###### ② 入園者の推移について

令和4年度から元年度までの月別の入園者の推移は、2ページのとおり。

###### ③ 新型コロナウイルスへの感染予防対策について

園内における新型コロナウイルスへの感染予防対策については、記載のと通りの対応を実施。令和5年3月13日以降、「国のマスク着用の考え方の見直し」に伴い、来園者のマスク着用は個人の判断に委ねることとした。

###### ④ 園内イベント実績について

令和4年度の園内イベントの実績は4から8ページのとおり。

記載のとおり、およそ120件のイベントを開催し、令和3年度の40件超から種類や回数が増加した。今後も、皆さんに楽しく学んでいただけるようなイベントを企画、実施していく。

###### ⑤ 企業連携事業について

企業との連携事業は9から11ページのとおり。これまで連携協力した企業とは、継続的な協力をいただきながら、新たに新静岡セノバ様をはじめとする企業とのコラボ企画の実施など、新たな連携事業の実施が実現できた。このほか、多大な寄附や物品の寄附をいただいた。

(市川施設係長)

⑥ 施設修繕について

主な修繕は11、12ページ記載のとおり。中型サル舎の長寿命化のための大規模修繕のほか、昨年9月の台風により被災したローラースライダー等の復旧修繕を実施した。

(山本参事)

(2) 令和5年度事業計画

① 令和5年度事業計画について

令和5年度の事業計画については、13ページからのとおり。

13ページ下段(3)計画概要の入園者数は、8月末現在で昨年より1割5分ほど減少している。移動自粛が取り払われ、来園者の増加を期待していたが、遠方への外出を多く選ばれたことから、GWの入込客数の伸びはなかった。また、6月以降の週末に重なった雨や猛暑など、屋外施設特有の悪条件が重なり、入園者数は厳しい状況にある。

9月の状況は、今年は37,230人で、昨年の28,568人から8,662人の増加となった。昨年は天候不順もあったことから、今年は暑かったものの天候には恵まれた感はある。これから行楽シーズンを迎えるため、新規イベントなどの開催と合わせて、巻き返しを図りたいと考えている。

現在の状況では、年間目標入園者数は、昨年度並みを見込んでいる。

今年度の新たな事業としては、③動物に関する教育普及事業の「アジアゾウの全身骨格標本製作」で、昨年5月に亡くなったシャンティを後世に残すため、製作した全身骨格標本をビクターセンターに展示する。展示開始時期は、今年の年末頃を予定している。

このほか、当園の入園料、駐車料(事前精算機)のキャッシュレス決済対応を行う。現在入園管理システムなどの改修を実施しており、令和6年2月上旬頃からの運用開始を予定している。キャッシュレス決済はその利便性から急速に市民生活へ浸透しているため、導入により来園者サービスの向上につながるものと考えている。

(8)夜の動物園については、今年は9月16日から3日間連続での開催をした。入園者数は、16日の土曜日は3,760人、17日の日曜日は4,494人、18日の祝日は2,641人となり、合計10,895人で、昨年開催した4回の合計が11,694人で、ほぼ同数という結果だった。

また、期間中、園内アンケートを実施し、高評価を得ている。

(3) 現状報告(金澤飼育担当課長)

① 展示動物の近況報告について

ホッキョクグマについては、今年初めに交尾行動を確認したことから、出産に備えた環境整備をしている。

② 繁殖動物について(塩野動物病院係長)

来園動物については、18ページのとおり。

当園で初の繁殖となったオニオオハシのほか、シロフクロウ、レッサーパンダが繁殖した。

③ 来園動物について(塩野動物病院係長)

来園動物については、19 ページのとおり。

ツチブタが来園。当園で飼育しているメスのフラハのパートナーとして、今後の繁殖が期待される。

④ 出園動物について（塩野動物病院係長）

出園動物は、ジャガーの小春で、大阪の天王寺動物園へ出園する。

小春は、令和3年11月に妹の小麦とともに双子で生まれ、それぞれ両親の体色を引き継ぎ、小麦は黄色、小春は黒色。出園する天王寺動物園は、父親の卯月小助の出身地。

なお、小麦は昨年、日立市かみね動物園に出園している。

⑤ 死亡動物について（塩野動物病院係長）

死亡動物は、20 ページのとおり。

チンパンジーのコニーが8月に死亡した。死因については現在調査中。

⑥ 主な施設修繕について（市川施設係長）

主な施設修繕は、20 ページ中段のとおりで、オオアリクイ舎の大規模改修及びローラースライダーの災害復旧工事を実施した。

⑦ その他報告事項について（山本参事）

その他事項は、21 ページ中段からのとおり。

民間企業との新規連携事業について、2件報告する。

コストコホールセールジャパン様と動物飼料用として、規格外の牛肉の無償提供を受ける協定を締結した。また、トヨタユナイテッド静岡様から、レッサーパンダをモチーフにしたオリジナルラッピングの軽トラックを1台寄贈いただいた。

「日本平動物園将来構想（案）」について、前回の委員会で各委員からも貴重な意見をいただき、策定に向けた市内部での調整を実施してきたが、当園の現状分析や将来予測のほか、市総合計画との整合を図っていく必要があると判断されたため、策定までに一定期間を要することとなった。基本的な方針などは現案をベースに再整理し、引き続き、策定に向けた作業を進めていく。

次に、日本平動物園サポーター制度については、当園のさらなる魅力向上を図るため、動物園や飼育動物への愛着、応援したいという強い思いを持つファンとの共感と相互理解の醸成、協力体制の構築を図ることを目的としている。令和6年度の事業開始を目指し、現在要綱等の整備を行っている。

⑧ 大型動物導入の推進事業について（岡村飼育第1係長）

23 ページからの大型動物導入の推進事業についてだが、当園はアジアゾウの新規個体導入を実現させるため、タイ王国を含む原産国の調査を実施している。前回の委員会でも報告しているが、現時点においては調査等の進展はない状況で、引き続き導入の可能性について調査をしていく。

（山本参事）

事務局からの説明は以上。

【 質 疑 応 答 】

(小山委員長)

事務局の説明について質疑を行う。

(永岡委員)

ジャガーの繁殖に成功し、他園に出園することのだが、なにか日本平動物園のメリットはあるのか。

飼育動物に対するコレクションプランがあるようだが、現在キリンがない。今後の予定は、民間企業との連携は良いこと。ぜひPRをしてもらいたい。

動物園サポーター制度を検討しているとのことだが、大変良い制度だと思う。他園の状況などを教えてほしい。

報道で見たが、全国の動物園の飼育環境調査を実施していることを知った。日本平動物園の予定はあるのか。

色々な書籍等で動物園ランキングなどがあるので、少しでもランキングが上がるよう努めてもらいたい。

(事務局：金澤飼育担当課長)

動物の繁殖は全国の動物園と協力しながら実施しており、相互に繁殖のための動物の貸し借りを行っている。繁殖した動物は、その頭数等によりそれぞれの動物園の帰属となる。なお、動物の繁殖管理は日本動物園水族館協会のコレクションプランに基づき、各動物の種別計画管理者が血統管理の上、計画的に実施している。

(事務局：岡村飼育第1係長)

キリンがいなくなってから1年ほど経ち、来園者からも飼育展示の再開を望む声はある。一方で動物福祉の観点からも、日本動物園水族館協会が示す適正施設ガイドラインに適合した飼育環境を整える必要があるが、現獣舎は昭和の時代に建設したもので、ガイドラインの要件に沿わない部分もある。現時点で飼育展示を再開した場合、施設の改修が困難となることもあり、園の将来構想との整合を図りながら検討をしていきたい。

(事務局：山本参事)

企業との連携は当園としても大変助かっている。今後も様々なジャンルでのパートナー連携を実施していきたい。

サポーター制度については、当園を応援していただける環境を整備していくが、実施している各園の成功事例もあるものの、課題も多くあるようである。そのあたりを整理してルールづくり、要綱を整備していきたい。

(事務局：竹下園長)

動物園の飼育環境調査については、世界的に動物の飼育環境を動物福祉に配慮していく指針に基づき、日本動物園水族館協会が、まずは世界動物園水族館協会に加盟している上野動物園や東山動物園などの9園を対象に2023年内に実施している。当園を含めそれ以外の動物園は、今後5年間をかけて調査が行われると聞いている。

(高委員)

多種多様なイベントを実施しているが、先着などの人数制限のあるイベントの集まり具合はどうか。また、こうしたイベントなどの広告戦略などはどうしているのか。

(事務局：山本参事)

各イベントについては、ほぼ定員に達している。動物を対象としていることから、多くの人数が参加できないため、申込者数により抽選などになるケースが多い。

イベントなどの広報については、園ホームページ等のほか、市内のみならず県中部や山梨県方面のこども園、小学校などの全児童等へのチラシ配布や公共交通機関への広告掲出を実施しており、今後はウェブ広告などにも取り組み広く周知を行っていく。

一方で広告効果の検証も難しく、試行錯誤しているところ。今回、新たに秋の動物園まつりのうちわを配布し、期間中に持参するとノベルティをプレゼントする取り組みを行い、広告における効果を検証する。

方向性としては、適切なターゲットへの訴求を行い、手に取ってもらい、人が動く仕組みを意識して実施していきたい。

(矢作委員)

来園者数が昨年度と比較して減少しているようだが、全国的に同じような傾向か。

(事務局：山本参事)

屋外施設ということで天候に左右されやすい面があるが、増えているところは増えている状況にある。外出先の選択肢が増えたことや目的地の多様化などが考えられるが、分析をしていきたいと考えている。

(矢作委員)

入園料や駐車料のキャッシュレス決済を導入するようだが、レストランなどへの対応は。

(オブザーバー：榊原事務局長)

レストラン等へのキャッシュレス決済についても導入の方向で検討している。

(松田委員)

暑さ対策に対する施設修繕の計画はどうなっているのか。

(事務局：市川施設係長)

施設の長寿命化や機械設備の更新などを計画的に実施している。動物への暑さ対策も合わせて検討しているが、対応可能な部分は都度実施していく。

(事務局：岡村飼育第1係長)

施設の改修時に暑さ対策を実施している。例えば、昨年実施した中型サル舎の改修時には、動物が水浴びできるような改修をした。

(増田委員)

来園者の熱中症対策としても、園内に日陰がもっとあると良い。他県の施設で遊歩道に屋根がついていて、雨が降っても濡れずに回るようになっていたところがあった。

(事務局：山本参事)

園内の屋内施設や休憩所では冷房を完備し、一定の対策はしているが、猛暑、雨天時は屋外施設特有の課題として認識している。

(田宮委員)

暑さ対策は必須。費用をかけるところはかけて、施設の改善をしてほしい。特に暑さに弱い動物は優先で行うべき。市民の憩いの場としても、対応していく必要がある。

(小山委員長)

寄贈されたトラックはどこで利用しているか。目にする機会はあるのか。

(事務局：山本参事)

主に園内での作業で利用しているが、動物飼料の受け取りなどで園外を走行していることも多いため、目していただく機会はある。

(小山委員長)

大学で保育園などに入る前の子どもを持つ母親を対象にした取り組みを行っており、孤独の子育てにならないよう、同じ境遇の人たちが集まれる場を求めている。小さい子どもたちにも適した環境を用意する必要もあるが、動物園をこのような新しいコミュニティの場として活用することについてはどうか。

(事務局：山本参事)

意見のあったイベントについては、健康文化交流館「来・て・こ」との連携事業として、歩き出す前までの子どもを持つ親のための交流の場となる講座を実施予定である。同様のイベントの開催は今後も可能ではないかと考えるので、アドバイス等をいただければと思う。

(小山委員長)

ほかに質疑がなければ、終わりとさせていただきます。